

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (269)

シキミの花

春の夕暮れ。タモツ君と妹のエミちゃんは、お父さんと散歩をしています。生垣に覆いかぶさるように、厚手の緑の葉の付け根から柄が伸びて、香りが強く、3センチほどの黄色みを帯びた白い花の咲いている木があります。立ち止まったエミちゃんが言います。

「お父さん、このお花、なんのお花？」

「なんだろう、知らないなあ。」と、お父さん。

「^{ひも} ^{たば}紐を束ねたみたいな花だね。花びらがたくさんある。」と、タモツ君。

「一、二、三、四……。お兄ちゃん、八枚ずつ、二重になってる！」

「お父さんとお散歩ですか。見事に咲いていますね。これは、シキミの花ですよ。」と、通りかかった婦人が教えてくれました。

「シキミというのですか。ありがとうございます。」と、お父さん。



シキミ

